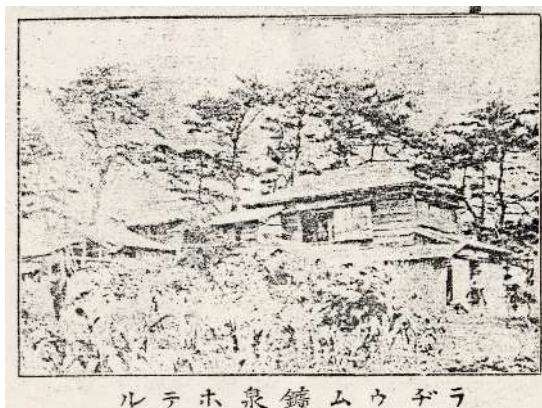


「柏崎の水」

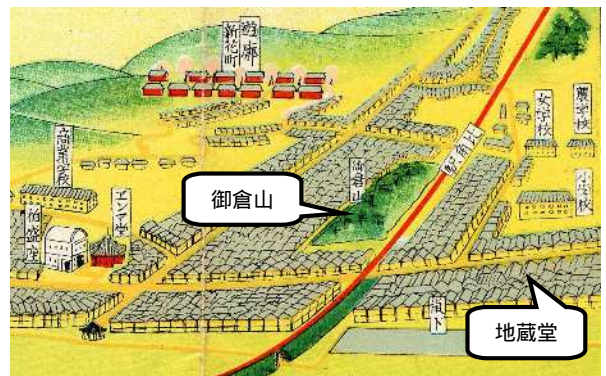
比角 地蔵堂の井戸 御倉山のラジウム鉱泉

地蔵堂の井戸

平成19年7月の中越沖地震では多くの歴史ある建物が失われた。四谷1丁目の地蔵堂もそのひとつである。地蔵堂は元禄の頃（1688～1704）草むらで発見された石地蔵を本尊として開山。地蔵尊とあわせて祀られていた三十三観音は、江戸吉原の花魁たちの寄進をうけて作られたため「おいらん観音」とも呼ばれ、その台座には花魁たちと思われる名前が刻まれている。また、明治6年頃には地蔵堂前に比角小学校が建っていた。境内には井戸があり、小学校の飲み水としても使われたことから「学校の井戸」とも呼ばれ、親しまれていた。毎年8月23日には地蔵堂のおまつりが行われた。「ねずみ塘と地蔵尊」によれば、地蔵堂まつりの日は三階節の太鼓が鳴り響き、境内には舞台が設けられ、ねずみ塘では花火が打ち上げられるなどとても賑やかであった。



御倉山のラジウム鉱泉浴場
柏崎市街略図（大正13年発行）掲載写真



地蔵堂と御倉山の位置
柏崎附近名勝案内（昭和3年発行）の部分拡大
比角駅は現在の東柏崎駅

御倉山のラジウム鉱泉

かつて東柏崎駅南西の一角は丘になっており、江戸時代に年貢米を貯蔵する郷蔵が建てられたため御倉山（御蔵山）と呼ばれた。丘は後の土地造成によりほとんど切り崩されてしまったが、現在の小倉町の遺跡考古館付近にはラジウム鉱泉浴場「養生館」があった。浴場の開業は大正3年。当時の越後タイムスには、6月13日からの5日間は開業祝いとして入浴料を3割引する、という広告が掲載されている。宿泊者が自由に自炊できる素朴な湯治場であり、鉱泉は神経痛・婦人病・皮膚病・リウマチなどに効能があったという。

参考にした本

「比角村史誌」三井田忠 著（224 ミイ）

「柏崎の史跡今昔」前沢潤 著（224 マエ）

「ねずみ塘と地蔵堂」前川政三郎 著（224 マエ）

「刈羽郡と名士」三井田源七 編（282 ミイ）

「柏崎附近名勝案内」小竹天瑞堂（292 オタ）

「ふるさと比角・ガイドブック」学び合う比角部会 編

（292 K ヒス）